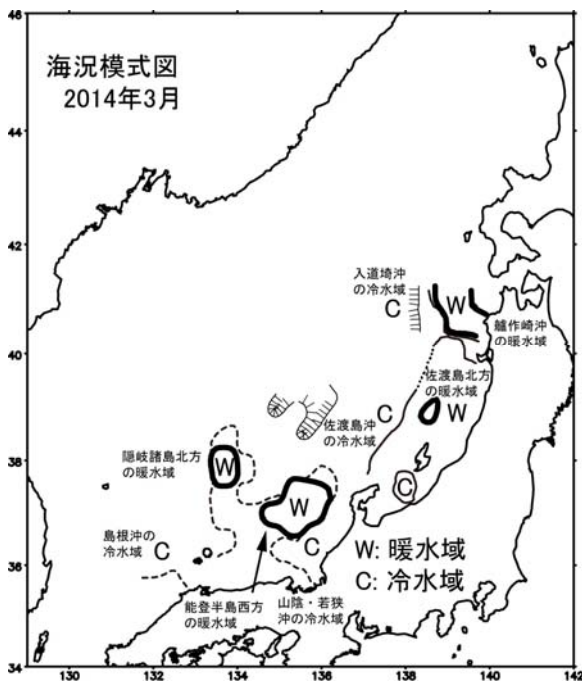


平成26年度 第1回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成26年4月~6月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。



2014年4月~6月の海況

- 隠岐諸島北方の暖水域は、ほぼ停滞する。
- 能登半島西方の暖水域は、やや南東に移動して能登半島に接近する。
- 佐渡島北方の暖水域は、北北東に移動して男鹿半島北部に分布する。
- 能登半島西方の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。
- 島根沖と佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや強め。
- 山陰・若狭沖と入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。

問い合わせ先

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成26年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2014年4月～6月）

- (1) 隠岐諸島北方の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島西方の暖水域は、やや南東に移動して能登半島に接近する。佐渡島北方の暖水域は、北北東に移動して男鹿半島北部に分布する。艫作崎沖の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。
- (2) 島根沖と佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや強め。山陰・若狭沖と入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過（2013年11月～2014年2月）

- (1) 11月に隠岐諸島北北西にみられた暖水域は、ゆっくり東に移動して、2月には隠岐諸島北方に分布（推定）。11月に能登半島北西にみられた大型暖水域は、2月までほぼ停滞。11月に佐渡島北方と男鹿半島南西にみられた暖水域は、北上して2月には男鹿半島北部沖に分布。12月に富山湾に暖水域が形成され、2月に一部が分離して佐渡島北方に移動。
- (2) 島根沖と山陰・若狭沖の冷水域は、11月は規模・接岸状況とも平年並み、12月、2月はデータが少なく不明。佐渡島沖の冷水域は、11月は規模・接岸状況とも平年並み、12月はやや小さく接岸状況は平年並み、2月はやや小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、11月と12月は規模・接岸状況とも平年並み、2月はやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月は、能登半島～佐渡島周辺の沿岸域及び能登半島北西で“かなり高め”～“はなはだ高め”、それ以外の沿岸域で概ね“やや高め”～“かなり高め”。12月は、北海道西岸で“かなり高め”、艫作崎沖で“かなり低め”、それ以外の沿岸域で概ね“平年並み”。2月は、津軽半島と佐渡島周辺で“やや低め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、11月は日本海西部で“平年並み”、北部で“やや高め”。

3. 現況（2014年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北方、能登半島西方、佐渡島北方、艫作崎沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模はやや大きく接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模はやや大きくかなり接岸。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、能登半島以北の沿岸域で“やや低め”～“かなり低め”、能登半島以西の沿岸域で“平年並み”～“やや低め”。対馬暖流沖合分枝域で概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“平年並み”。

（註）引用符（ ” ” ）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| ” はなはだ高め（低め） ” | ： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| ” かなり高め（低め） ” | ： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ） |
| ” やや高め（低め） ” | ： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ） |
| ” 平年並み ” | ： 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所